

短 報

富山湾における鯨類の記録 (2022・2023年)

南部 久男¹⁾, 清水 海渡²⁾, 田島 木綿子³⁾,
山田 格^{†3)}

- ¹⁾ 富山市科学博物館登録ボランティア 939-8084 富山市
西中野町一丁目8-31
²⁾ 富山市科学博物館 939-8084 富山市西中野町一丁目8-31
³⁾ 国立科学博物館動物研究部 305-0005 茨城県つくば市
天久保4-1-1

Records of Cetaceans in Toyama Bay, Sea of Japan, 2022 and 2023

Hisao Nambu¹⁾, Kaito Shimizu²⁾,
Yuko Tajima³⁾ and Tadasu K. Yamada³⁾

- ¹⁾ Toyama Science Museum volunteer, 1-8-31
Nishinakano-machi, Toyama 939-8084, Japan
²⁾ Toyama Science Museum, 1-8-31 Nishinakano-machi,
Toyama 939-8084, Japan
³⁾ National Museum of Nature and Science, Department
of Zoology, 4-1-1 Amakubo, Tsukuba-shi, Ibaraki 305-
0005, Japan

1. はじめに

富山湾（主に富山県側）の海棲哺乳類については筆者らにより、1999年から漂着調査等が継続的に行なわれている（南部, 2009; 南部・山田, 2006; 南部ら, 2000, 2002, 2003, 2004, 2005, 2007, 2008, 2010, 2011, 2012, 2013, 2015, 2016, 2017, 2018a, 2019, 2020, 2021, 2022; 関ら, 2005; 田島ら, 2012）。本稿では2022年と2023年に富山湾で確認された鯨類について報告する。

2. 方法

鯨類の漂着については、情報を得しだい可能な限り現地調査を行い、体長の計測、体表から観察できる損傷状況の確認、写真撮影等を行った。海域での目撃情報では、現場で観察と写真撮影を行った。文献や報道からも情報を収集した。

3. 結果

2022年に富山湾で確認した鯨類は、マッコウクジラとマイルカ科の一種の2件2個体で、2023年はカマイルカ

† 2024年5月物故

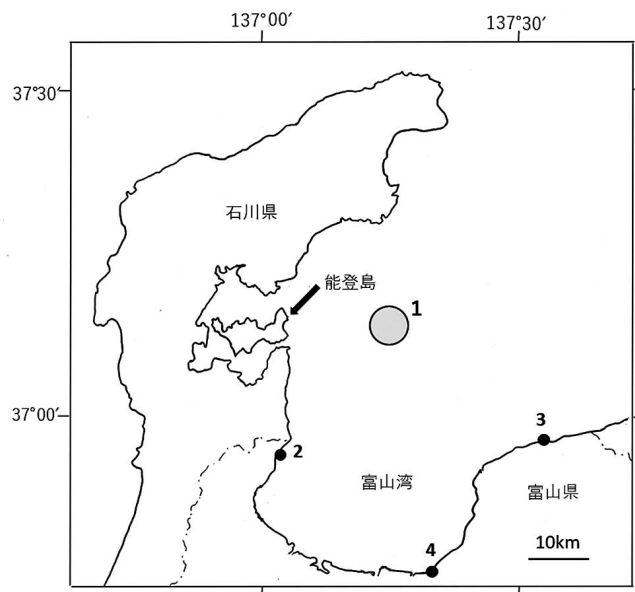


図1. 2022, 2023年の富山湾における鯨類の確認地点。
1, 能登島沖(推定); 2, 氷見市中波; 3, 朝日町草野;
4, 上市川河口。

とマイルカ科の一種の2件2個体であった。

3.1. 2022年に確認した鯨類

3.1.1. マッコウクジラ *Physeter macrocephalus*

下記の情報は、石川 (2023) 及びTBS NEWS DIG (2022-06-22) による。

【目撃日】2022年6月19日。

【目撃場所】七尾市能登島沖約15km (図1-1)。

【目撃状況】釣り人が1頭のクジラを発見し、動画を撮影する。

3.1.2. マイルカ科の一種

【発見日】2022年11月25日

【発見場所】氷見市中波 (図1-2)

【現地確認】市民より氷見市に通報があり、2022年11月25日氷見市環境防犯課職員が現地確認を行った。

【確認状況】波打ち際に横たわる (図2)。胴後半は欠損する。

【備考】氷見市環境防犯課から情報を得た。



図2. マイルカ科の一種。氷見市中波。2022年11月25日撮影。氷見市環境防犯課提供。



図3. カマイルカの漂着場所(矢印). 朝日町草野. 2023年4月5日撮影.



図5. イルカ1頭が出現した上市川河口(右岸側より). 2023年6月10日撮影.



図4. カマイルカの全身. A, 左側面; B, 右側面.

3.2. 2023年に確認した鯨類

3.2.1. カマイルカ *Lagenorhynchus obliquidens*

【発見日】2023年4月5日, 散歩中の市民が発見する.

【発見場所】朝日町草野(図1-3). 四角いコンクリートブロックが設置してある斜面の波打ち際にイルカの漂着個体(死体)が横たわる(図3).

【現地調査】2023年4月6日午後, 南部が漂着状況の確認と計測及び個体の観察を行った. 体長約186 cmのオス(図4). 表皮は体の左側では, 頭部の一部と胴部の一部が剥がれ, 右側は頭部と胴部ともに大部分が剥がれていた. 体表に傷は認められなかった.

【備考】朝日町農林水産課から情報を得た.

3.2.2. マイルカ科の一種

【発見日】2023年6月10日. 現地にいた人が魚津水族館に連絡し, 水族館から富山市科学博物館(清水)に連絡があった.

【発見場所】上市川河口(図1-4, 図5)

【現地調査】2023年6月10日(11:10~15:45)に南部が現地観察を行った. 上市川河口からやや沖合の長さ約200 m, 幅約50 mの範囲でイルカ1個体が潜水,

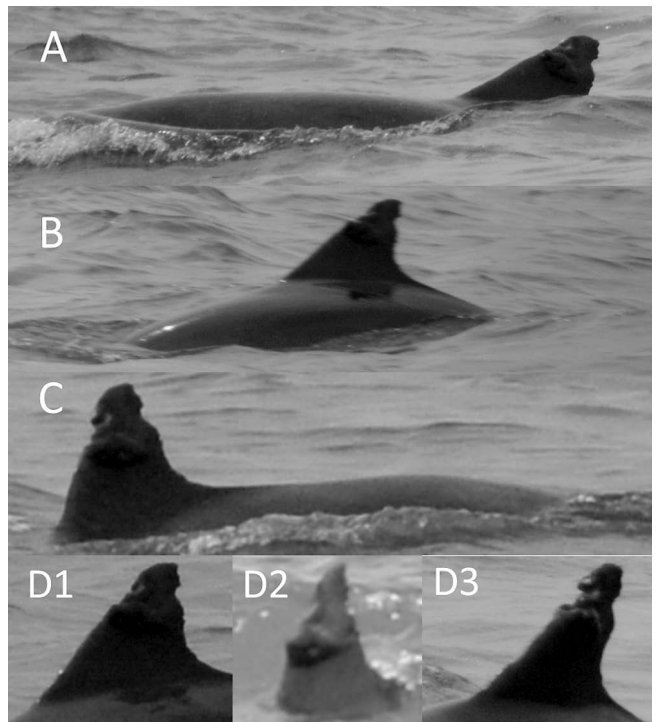


図6. 浮上したイルカと背ビレ. A, 胴前方; B, 胴中央部; C, 胴後方. D, 背ビレ左側面. D1, 背ビレ全体の形はほぼ三角形に見え, 後縁上部が凹んで見える; D2, 先端の皮膚が剥がれて見える; D3, 先端前縁の傷跡が凹み, 後縁も凹んで見える. 2023年6月10日撮影.

浮上を繰り返しており(図6), エサを捕っていたと考えられる. 上空にはミサゴ *Pandion haliaetus* 数羽がホバリングしながら急降下し, 水面下の魚を捕えていた. 背ビレの先端には特徴的な傷跡が見られた(図6D). なお, 6月17日(10:20~10:45)の現地調査では, イルカは確認できなかった.

4. 考察

2022年に富山湾で確認した鯨類は富山県側ではマイル

カ科の一種 1 個体の漂着のみで、石川県側では能登島沖でマッコウクジラ 1 個体の目撃があった。2023年は富山県側でカマイルカ 1 個体の漂着とマイルカ科の一種 1 個体の目撃があった。マッコウクジラとカマイルカはいずれも富山湾の既知種である。

マッコウクジラは2022年 6 月19日に石川県能登島沖で 1 個体が目撃された。富山湾では2018年 4 月21日に富山県魚津市沖で 1 頭が目撃されており (南部ら, 2018a), 近年の富山湾では本種の記録は 2 例目である。富山湾の周辺では2004年 3 月16日に新潟県柏崎北西沖で 1 個体目撃されている (石川ら, 2013)。

カマイルカは富山湾では最も漂着 (死亡) 個体が多い鯨類である (南部ら, 2021)。特に富山県西部の海岸で漂着例が多く、富山湾中央部から東部では比較的少ない (南部ら, 2021)。朝日町ではカマイルカを含む鯨類の漂着は確認されていなかったが、本報告で初めてカマイルカの漂着が確認された。また、富山県のカマイルカの漂着月は 4～6 月が多く (南部ら, 2021)、今回も 4 月であり漂着の多い月の範囲内であった。

上市川河口で確認されたマイルカ科の一種は、ハンドウイルカ *Tursiops truncatus* 又はミナミハンドウイルカ *Tursiops aduncus* の可能性がある。ハンドウイルカは富山湾でも漂着記録があり (南部ら, 2010)、ミナミハンドウイルカは石川県七尾湾に定住している (図 1; 森, 2013)。近年は新潟県や秋田県の沿岸に出現している (大原, 2021)。

5. 謝辞

氷見市環境防犯課には貴重な情報及び写真を提供頂いた。朝日町農林水産課の廣田直人氏には貴重な情報提供や現地を案内して頂いた。魚津水族館には貴重な情報を提供いただいた。大原淳一氏には貴重なマッコウクジラの情報を提供いただいた。石川創氏には文献を賜った。皆様に心より感謝申し上げる。

6. 引用文献

- 石川 創, 2023. ストランディングレコード (2022年収集). 日本セトロロジー研究, (33) : 37-66. http://doi.org/10.518/cetology.33.0_37
- 石川 創・後藤睦夫・茂越敏弘, 2013. 日本沿岸のストランディングレコード (1901～2012). 下関鯨類研究室報告, (1) : 1-314.
- 森 恭一, 2013. 能登島のミナミハンドウイルカ. 月刊海洋, 45: 253-256.
- 南部久男, 2009. 富山湾における鯨類の記録 (2008). 富山市科学博物館研究報告, (32) : 115-116.
- 南部久男・稲村 修・田島木綿子・倉持利明・山田 格, 2002. 富山湾における鯨類 (*Cetaceans*) の記録 (2001年). 富山市科学文化センター研究報告, (25) : 129-132.
- 南部久男・石川 創・天野雅男・山田 格・大原淳一・石井雅之・田島木綿子, 2018a. 2018年 4 月に富山湾に出現したマッコウクジラ. 日本セトロロジー研究, (28): 27-34. https://doi.org/10.5181/cetology.0.28_27
- 南部久男・石川 創・山田 格・台藏正一・大田希生, 2007. 富山湾における鯨類の記録 (2006年). 富山市科学文化センター研究報告, (30) : 63-68.
- 南部久男・石川 創・山田 格・田島木綿子・谷田部明子・台藏正一・大田希生, 2008. 富山湾における鯨類の記録 (2007年). 富山市科学文化センター研究報告, (31) : 99-102.
- 南部久男・真柄真実・栗原 望・山田 格・関 東雄・台藏正一・石川雄士, 2010. 富山湾における鯨類の記録 (2009年). 富山市科学博物館研究報告, (33) : 105-108.
- 南部久男・西尾正輝・川上僚介・田島木綿子・山田 格, 2021. 富山湾における海棲哺乳類の記録 (2020年). 富山市科学文化センター研究報告, (45) : 69-71.
- 南部久男・西尾正輝・田島木綿子・山田 格, 2020. 富山湾における海棲哺乳類の記録 (2019年). 富山市科学博物館研究報告, (44) : 53-57.
- 南部久男・西岡 満・関谷伸一・山田 格・太田希生, 2004. 富山湾における鯨類の記録 (2003年). 富山市科学文化センター研究報告, (27) : 75-78.
- 南部久男・西岡 満・田中 豊・太田希生, 2003. 富山湾における鯨類・ウミガメ類の記録 (2002年). 富山市科学文化センター研究報告, (26) : 145-147.
- 南部久男・関 東雄・真柄真実・山田 格・太田希生・藤田将人, 2011. 富山湾における海棲哺乳類の記録 (2010年). 富山市科学博物館研究報告, (34) : 141-144.
- 南部久男・関 東雄・田島木綿子・山田 格, 2016. 富山湾における鯨類の記録 (2015年). 富山市科学博物館研究報告, (40) : 99-101.
- 南部久男・関 東雄・山田 格, 2015. 富山湾における海棲哺乳類の記録 (2014年). 富山市科学博物館研究報告, (39) : 55-60.
- 南部久男・清水海渡・西尾正輝・田島木綿子・山田 格, 2022. 富山湾における海棲哺乳類の記録 (2021年). 富山市科学文化センター研究報告, (46) : 75-78.
- 南部久男・田島木綿子・新井上巳・山田 格・田中 豊・

- 大田希生, 2005. 富山湾における鯨類の記録 (2004年). 富山市科学文化センター研究報告, (28) : 91-94.
- 南部久男・田島木綿子・荻野みちる・倉持利明・山田格・田中 豊, 2000. 富山湾氷見市の海岸に漂着したオットセイについて. 富山市科学文化センター研究報告, (23) : 169-171.
- 南部久男・田島木綿子・山田 格, 2012. 富山湾における鯨類の記録 (2011年). 富山市科学博物館研究報告, (35) : 103-105.
- 南部久男・田島木綿子・山田 格, 2013. 富山湾における鯨類の記録 (2012年). 富山市科学博物館研究報告, (37) : 109-110.
- 南部久男・田島木綿子・山田 格, 2017. 富山湾における鯨類の記録 (2016年). 富山市科学博物館研究報告, (41) : 67-70.
- 南部久男・田島木綿子・山田 格, 2018b. 富山湾における鯨類の記録 (2017年). 富山市科学博物館研究報告, (42) : 65-67.
- 南部久男・田島木綿子・山田 格, 2019. 富山湾における鯨類の記録 (2018年). 富山市科学博物館研究報告, (43) : 71-76.
- 南部久男・山田 格, 2006. 富山湾における鯨類の記録 (2005年). 富山市科学文化センター研究報告, (29) : 113-114.
- 大原淳一, 2021. 新潟県・山形県・秋田県に出現したミナミハンドウイルカの報告. 日本セトロロジー研究会第31回 (オンライン大会) 発表要旨集, p.14.
- 関 東雄・南部久男・山田 格・石川 創, 2005. 富山湾の海上における鯨類の目撃記録. 富山市科学文化センター研究報告, (28) : 113-122.
- 田島木綿子・山田 格・南部久男, 2012. 富山県魚津市に漂着したハナゴンドウ *Grampus griseus*. 富山市科学文化センター研究報告, (35) : 107-108.
- TBS NEWS DIG. 2022-06-22. 「今思えば地震の前ぶれ？」能登沖で目撃したのは (MRO 北陸放送). <https://newsdig.tbs.co.jp/articles/-/77120?display=1>. 2022年6月23日閲覧.